

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-63742

(P2010-63742A)

(43) 公開日 平成22年3月25日(2010.3.25)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 6 3 F 7/02 (2006.01)	A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z	2 C 0 8 8
	A 6 3 F 7/02 3 3 4	

審査請求 有 請求項の数 7 O L (全 24 頁)

(21) 出願番号 特願2008-234545 (P2008-234545)	(71) 出願人 000132747 株式会社ソフィア
(22) 出願日 平成20年9月12日 (2008. 9. 12)	群馬県桐生市境野町 7 丁目 2 〇 1 番地
	(74) 代理人 100090033 弁理士 荒船 博司
	(74) 代理人 100093045 弁理士 荒船 良男
	(74) 代理人 100085811 弁理士 大日方 富雄
	(72) 発明者 平石 健一
	群馬県太田市吉沢町 9 9 〇 番地 株式会社
	ソフィア内
	F ターム (参考) 2C088 BC45 BC47

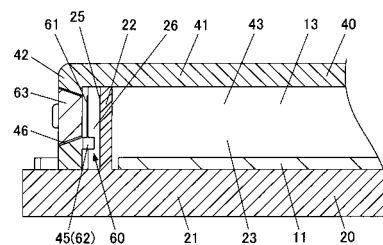
(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【要約】

【課題】複数の電子部品を搭載した基板と、該基板を収納する基板ボックスを備えた遊技機において、搬送作業や取り付け作業時等の衝撃等による I C タグの破損を防止する。

【解決手段】第 1 ボックス部材 2 〇 に固有の識別情報が記憶された固有識別情報記憶手段 (I C タグ 6 1) を備え、第 2 ボックス部材 4 〇 に固有識別情報記憶手段を破壊するための破壊手段 6 2 を備える。また、基板ボックス 1 2 を閉鎖状態から開放状態に変換することに伴い、破壊手段 6 2 が固有識別情報記憶手段を読み取り不能となるように破壊するようにする。

【選択図】 図 5



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

複数の電子部品を搭載した基板と、該基板を収納する基板ボックスと、を備えた遊技機において、

前記基板ボックスは、

第 1 ボックス部材と、第 2 ボックス部材と、を備え、

前記第 1 ボックス部材と前記第 2 ボックス部材とを接合して前記基板を収納する収納空間を形成する閉鎖状態と、

前記第 1 ボックス部材と前記第 2 ボックス部材との接合を解除して前記収納空間を開放した開放状態と、に変換できるように構成され、

前記第 1 ボックス部材に固有の識別情報が記憶された固有識別情報記憶手段を備え、

前記第 2 ボックス部材に前記固有識別情報記憶手段を破壊するための破壊手段を備え、

前記閉鎖状態から前記開放状態に変換することに伴い、前記破壊手段が前記固有識別情報記憶手段を読み取り不能となるように破壊するようにしたことを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

前記第 1 ボックス部材は、前記閉鎖状態から前記開放状態に変換する際に前記第 1 ボックス部材に対して前記第 2 ボックス部材が移動する方向である開放方向に沿った第 1 壁部を備え、該第 1 壁部に前記固有識別情報記憶手段を取り付ける取付部を備え、

前記第 2 ボックス部材は、前記破壊手段として前記閉鎖状態において前記取付部と対向する位置に、前記取付部へ向かって延出する破壊用突起部を備え、

前記取付部における前記破壊用突起部と対応する位置に、該破壊用突起部を受け入れる案内部を、前記開放方向に沿って延在するように形成し、

前記閉鎖状態において前記取付部には、前記閉鎖状態から前記開放状態に変換する際に前記破壊用突起部が通過する位置に、前記案内部を覆うように前記固有識別情報記憶手段を配設し、

前記基板ボックスを前記閉鎖状態から前記開放状態に変換する際に、前記破壊用突起部が前記案内部に沿って移動して前記取付部に取り付けられた前記固有識別情報記憶手段を読み取り不能となるように破壊するようにしたことを特徴とする請求項 1 に記載の遊技機。

【請求項 3】

前記第 2 ボックス部材は、前記閉鎖状態で前記取付部が形成された前記第 1 ボックス部材の前記第 1 壁部を外側から覆う第 2 壁部を有し、

該第 2 壁部には、前記取付部における前記固有識別情報記憶手段の配設位置と対向する位置に、前記固有識別情報記憶手段を取り付けるための取付用開口部を、当該第 2 壁部を貫通するように形成し、

前記取付用開口部に、該取付用開口部を閉鎖して前記取付部に取り付けられた前記固有識別情報記憶手段を覆うカバー部材を着脱可能に取り付けたことを特徴とする請求項 2 に記載の遊技機。

【請求項 4】

前記取付用開口部は、前記基板ボックスの外側へ向かって拡張するように形成されていることを特徴とする請求項 3 に記載の遊技機。

【請求項 5】

前記取付用開口部は、前記破壊用突起部に対して前記開放方向側に形成されていることを特徴とする請求項 4 に記載の遊技機。

【請求項 6】

前記案内部を、前記第 1 壁部を貫通するように複数形成し、

前記破壊用突起部は、

前記案内部を介して、前記第 2 ボックス部材から前記第 1 ボックス部材の内側へ延出する第 1 延出部と、

該第 1 延出部に連続し、該第 1 延出部が貫通する前記案内部以外の前記案内部を介して

前記第 1 ボックス部材の内側から第 2 ボックス部材側へ延出する第 2 延出部と、を備えることを特徴とする請求項 5 に記載の遊技機。

【請求項 7】

前記破壊用突起部は、

前記取付部側に突出し、前記開放状態への変換により前記固有識別情報記憶手段を破壊可能な突出状態と、

前記第 2 壁部側へ退縮し、前記開放状態への変換によっても前記固有識別情報記憶手段を破壊不能な退避状態と、に変換可能であり、付勢部材により前記突出状態となる方向に付勢されており、

前記破壊用突起部における前記取付用開口部側の側部に被係合部を形成し、

前記取付用開口部を閉鎖して前記取付部に取り付けられた前記固有識別情報記憶手段を覆う仮設カバー部材に、前記被係合部に係合する係合部を設け、

前記仮設カバー部材を、前記係合部が前記破壊用突起部の前記被係合部に係合した状態で前記取付用開口部に取り付けることで、前記破壊用突起部が退避状態に変換されるようにしたことを特徴とする請求項 1 から 5 の何れか一項に記載の遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、複数の電子部品を搭載した基板と、該基板を収納する基板ボックスと、を備えた遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、遊技制御を行う CPU 等、複数の電子部品を搭載した遊技制御基板を、複数のケース部材に分割構成される基板ボックスに収納するようにしており、また、この基板ボックスは、内包する遊技制御基板に対する不正行為を防止するため、かしめ等の止着手段により、強固に止着され、開放時にはその痕跡が残るような構造が採られている。また、現在では、上記遊技制御基板を内包した基板ボックスに、固有の識別情報を記憶した IC タグを貼付して、その識別情報を所定の監視装置（読取装置）によって定期的に読み取る（確認する）ことで、不正行為を防止、抑止するようにしている。また、このような IC タグは、分割構成される複数のケース部材に跨って貼付されており、基板状の不正な部品交換だけでなく、基板ボックス自体の不正開放も不可能なように構成されている（例えば、特許文献 1 参照）。

【特許文献 1】特開 2004-174112 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

しかし、上記のような構造からなる基板ボックスでは、例えば IC タグを貼付した状態で基板ボックスの搬送作業や取り付け作業を行った場合、何らかの衝撃や揺れにより、複数のケース部材が離れてしまったり、上下左右にずれを起こしたりすることが大いに考えられ、IC タグが破壊されて通信不能となり、読み取りができなくなったり、再度 IC タグを貼付しなければならないという手間が生じることとなる。また、従来の基板ボックスにただ IC タグを貼付するのではなく、上記のような不正開放や不正交換の防止を考慮したうえで IC タグを貼付する箇所、その構造を新たに設ける必要があり、部品点数が増え、コストや設計、開発作業負担の増加という問題にもつながる。

【0004】

本発明の目的は、複数の電子部品を搭載した基板と、該基板を収納する基板ボックスと、を備えた遊技機において、搬送作業や取り付け作業時等の衝撃等による IC タグの破損を防止することである。

【課題を解決するための手段】

【0005】

10

20

30

40

50

以上の課題を解決するため、請求項１に記載の発明は、
複数の電子部品を搭載した基板と、該基板を収納する基板ボックスと、を備えた遊技機
において、

前記基板ボックスは、

第１ボックス部材と、第２ボックス部材と、を備え、

前記第１ボックス部材と前記第２ボックス部材とを接合して前記基板を収納する収納空間を形成する閉鎖状態と、

前記第１ボックス部材と前記第２ボックス部材との接合を解除して前記収納空間を開放した開放状態と、に変換できるように構成され、

前記第１ボックス部材に固有の識別情報が記憶された固有識別情報記憶手段を備え、

10

前記第２ボックス部材に前記固有識別情報記憶手段を破壊するための破壊手段を備え、

前記閉鎖状態から前記開放状態に変換することに伴い、前記破壊手段が前記固有識別情報記憶手段を読み取り不能となるように破壊するようにしたことを特徴とする。

【０００６】

ここで、「固有識別情報記憶手段」は、例えば、アンテナ部および該アンテナ部を介してデータを送受信するとともに固有の識別情報を記憶するＩＣチップを有するＩＣタグである。

また、「読み取り不能となるように破壊する」とは、固有識別情報を読み出すことができないようにすることであって、例えば、固有識別情報記憶手段として上記のＩＣタグを用いた場合は、ＩＣチップとアンテナ部の何れか一方または両方を破壊することである。

20

【０００７】

請求項１に記載の発明によれば、第１ボックス部材に固有の識別情報が記憶された固有識別情報記憶手段を備え、第２ボックス部材に固有識別情報記憶手段を破壊するための破壊手段を備え、閉鎖状態から開放状態に変換することに伴い、破壊手段が固有識別情報記憶手段を読み取り不能となるように破壊するようにしたので、搬送作業や取り付け作業時の衝撃等により、固有識別情報記憶手段が破損することを防止できる。すなわち、固有識別情報記憶手段が一方のボックス部材にのみ配され、閉鎖状態から開放状態に変換することに伴い、破壊手段が固有識別情報記憶手段を破壊するので、基板ボックスの搬送作業や取り付け作業を行う際に何らかの衝撃や揺れによりボックス部材どうしにずれが生じても、固有識別情報記憶手段が破壊されてしまうことがない。特に、開放方向以外へのずれによって固有識別情報記憶手段が破壊されることはない。また、固有識別情報記憶手段を破壊するための破壊手段６２を備えていることから、単に開封する際の力によって破壊される固有識別情報記憶手段に比べ強度の高い固有識別情報記憶手段を用いることもでき、開放方向へのずれによって固有識別情報記憶手段が破壊されることを防止できる。また、閉鎖状態から開放状態に変換することに伴い、破壊手段が固有識別情報記憶手段を破壊するので、不正な基板ボックスの開放や、内包される基板に対する不正行為を防止できる。

30

【０００８】

請求項２に記載の発明は、請求項１に記載の遊技機であって、前記第１ボックス部材は、前記閉鎖状態から前記開放状態に変換する際に前記第１ボックス部材に対して前記第２ボックス部材が移動する方向である開放方向に沿った第１壁部を備え、該第１壁部に前記固有識別情報記憶手段を取り付ける取付部を備え、

40

前記第２ボックス部材は、前記破壊手段として前記閉鎖状態において前記取付部と対向する位置に、前記取付部へ向かって延出する破壊用突起部を備え、

前記取付部における前記破壊用突起部と対応する位置に、該破壊用突起部を受け入れる案内部を、前記開放方向に沿って延在するように形成し、

前記閉鎖状態において前記取付部には、前記閉鎖状態から前記開放状態に変換する際に前記破壊用突起部が通過する位置に、前記案内部を覆うように前記固有識別情報記憶手段を配設し、

前記基板ボックスを前記閉鎖状態から前記開放状態に変換する際に、前記破壊用突起部が前記案内部に沿って移動して前記取付部に取り付けられた前記固有識別情報記憶手段を

50

読み取り不能となるように破壊するようにしたことを特徴とする。

【0009】

請求項2に記載の発明によれば、取付部における破壊用突起部と対応する位置に、該破壊用突起部を受け入れる案内部を開放方向に沿って延在するように形成し、閉鎖状態において取付部には開放状態に変換する際に破壊用突起部が通過する位置に、案内部を覆うように固有識別情報記憶手段を配設し、基板ボックスを開放状態に変換する際に、破壊用突起部が案内部に沿って移動して取付部に取り付けられた固有識別情報記憶手段を読み取り不能となるように破壊するようにしたので、搬送作業や取り付け作業時等の衝撃等により、固有識別情報記憶手段が破損することを防止できる。すなわち、基板ボックスを開放する方向に破壊用突起部が移動した場合にのみ固有識別情報記憶手段が破壊されるので、基板ボックスの搬送作業や取り付け作業を行う際に何らかの衝撃や揺れによりボックス部材どうしにずれが生じて、固有識別情報記憶手段が破壊されてしまうことがない。なお、基板ボックスを開放する方向に対しては、不正行為の防止のために固着手段等によりずれが生じないように固着されるため、このような構成としても不都合が生じることがない。また、案内部により破壊用突起部が案内されることで、閉鎖状態から開放状態に変換することに伴い、確実に固有識別情報記憶手段が破壊されるので、不正な基板ボックスの開放や、内包される基板に対する不正行為を防止できる。

10

【0010】

請求項3に記載の発明は、請求項2に記載の遊技機であって、前記第2ボックス部材は、前記閉鎖状態で前記取付部が形成された前記第1ボックス部材の前記第1壁部を外側から覆う第2壁部を有し、

20

該第2壁部には、前記取付部における前記固有識別情報記憶手段の配設位置と対向する位置に、前記固有識別情報記憶手段を取り付けるための取付用開口部を、当該第2壁部を貫通するように形成し、

前記取付用開口部に、該取付用開口部を閉鎖して前記取付部に取り付けられた前記固有識別情報記憶手段を覆うカバー部材を着脱可能に取り付けたことを特徴とする。

【0011】

請求項3に記載の発明によれば、第2ボックス部材は、閉鎖状態で取付部が形成された第1ボックス部材の第1壁部を外側から覆う第2壁部を有し、該第2壁部には、取付部における固有識別情報記憶手段の配設位置と対向する位置に、固有識別情報記憶手段を取り付けるための取付用開口部を、当該第2壁部を貫通するように形成したので、閉鎖状態で取付部に固有識別情報記憶手段を取り付けることができる。また、取付用開口部に、該取付用開口部を閉鎖して取付部に取り付けられた固有識別情報記憶手段を覆うカバー部材を着脱可能に取り付けたので、搬送作業や取り付け作業時等において固有識別情報記憶手段が破損することを防止できる。

30

【0012】

請求項4に記載の発明は、請求項3に記載の遊技機であって、前記取付用開口部は、前記基板ボックスの外側へ向かって拡張するように形成されていることを特徴とする。

【0013】

請求項4に記載の発明によれば、取付用開口部は、基板ボックスの外側へ向かって拡張するように形成されているので、固有識別情報記憶手段の取付作業が容易になる。

40

【0014】

請求項5に記載の発明は、請求項4に記載の遊技機であって、前記取付用開口部は、前記破壊用突起部に対して前記開放方向側に形成されていることを特徴とする。

【0015】

請求項5に記載の発明によれば、取付用開口部は、破壊用突起部に対して開放方向側に形成されているので、基板ボックスを閉鎖状態から開放状態に変換する際に破壊用突起部が通過する取付部の所定位置に固有識別情報記憶手段を閉鎖状態において配設することができる。

【0016】

50

請求項 6 に記載の発明は、請求項 5 に記載の遊技機であって、前記案内部を、前記第 1 壁部を貫通するように複数形成し、

前記破壊用突起部は、

前記案内部を介して、前記第 2 ボックス部材から前記第 1 ボックス部材の内側へ延出する第 1 延出部と、

該第 1 延出部に連続し、該第 1 延出部が貫通する前記案内部以外の前記案内部を介して前記第 1 ボックス部材の内側から第 2 ボックス部材側へ延出する第 2 延出部と、を備えることを特徴とする。

【0017】

請求項 6 に記載の発明によれば、案内部を、第 1 壁部を貫通するように複数形成し、破壊用突起部は、案内部を介して、第 2 ボックス部材から第 1 ボックス部材の内側へ延出する第 1 延出部と、該第 1 延出部に連続し、該第 1 延出部が貫通する案内部以外の案内部を介して第 1 ボックス部材の内側から第 2 ボックス部材側へ延出する第 2 延出部と、を備えるので、破壊用突起部が確実に案内部により案内されるようになり、閉鎖状態から開放状態に変換することに伴い、確実に固有識別情報記憶手段が破壊されるので、不正な基板ボックスの開放や、内包される基板に対する不正行為を防止できる。

【0018】

請求項 7 に記載の発明は、請求項 1 から 5 の何れか一項に記載の遊技機であって、前記破壊用突起部は、

前記取付部側に突出し、前記開放状態への変換により前記固有識別情報記憶手段を破壊可能な突出状態と、

前記第 2 壁部側へ退縮し、前記開放状態への変換によっても前記固有識別情報記憶手段を破壊不能な退避状態と、に変換可能であり、付勢部材により前記突出状態となる方向に付勢されており、

前記破壊用突起部における前記取付用開口部側の側部に被係合部を形成し、

前記取付用開口部を閉鎖して前記取付部に取り付けられた前記固有識別情報記憶手段を覆う仮設カバー部材に、前記被係合部に係合する係合部を設け、

前記仮設カバー部材を、前記係合部が前記破壊用突起部の前記被係合部に係合した状態で前記取付用開口部に取り付けることで、前記破壊用突起部が退避状態に変換されるようにしたことを特徴とする。

【0019】

請求項 7 に記載の発明によれば、破壊用突起部は、取付部側に突出した突出状態と、第 2 壁部側へ退縮した退避状態と、に変換可能であり、付勢部材により突出状態となる方向に付勢されており、破壊用突起部に被係合部を形成し、取付用開口部を閉鎖する仮設カバー部材に被係合部に係合する係合部を設け、仮設カバー部材を、係合部が破壊用突起部の被係合部に係合した状態で取付用開口部に取り付けることで、破壊用突起部が退避状態に変換されるので、搬送作業や取り付け作業時等の衝撃等により、固有識別情報記憶手段が破損することを防止できる。また、基板の検査時などにおいて仮設カバー部材を取り付けた状態で基板ボックスを開放すれば、固有識別情報記憶手段を破壊せずに開放することができ、固有識別情報記憶手段を取り替える必要がなくなる。なお、遊技機の使用時には係合部を有しないカバー部材を取り付けることで、破壊用突起部は突出状態となり、基板ボックスを閉鎖状態から開放状態に変換することに伴い、固有識別情報記憶手段が破壊されるようになるので、不正な基板ボックスの開放や、内包される基板に対する不正行為を防止できる。

【発明の効果】

【0020】

本発明によれば、第 1 ボックス部材に固有の識別情報が記憶された固有識別情報記憶手段を備え、第 2 ボックス部材に固有識別情報記憶手段を破壊するための破壊手段を備え、閉鎖状態から開放状態に変換することに伴い、破壊手段が固有識別情報記憶手段を読み取り不能となるように破壊するようにしたので、搬送作業や取り付け作業時等の衝撃等によ

10

20

30

40

50

り、固有識別情報記憶手段が破損することを防止できる。すなわち、固有識別情報記憶手段が一方のボックス部材にのみ配され、閉鎖状態から開放状態に変換することに伴い、破壊手段が固有識別情報記憶手段を破壊するので、基板ボックスの搬送作業や取り付け作業を行う際に何らかの衝撃や揺れによりボックス部材どうしにずれが生じてても、固有識別情報記憶手段が破壊されてしまうことがない。また、閉鎖状態から開放状態に変換することに伴い、破壊手段が固有識別情報記憶手段を破壊するので、不正な基板ボックスの開放や、内包される基板に対する不正行為を防止できる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0021】

以下、この発明の実施形態について図面を参照して説明する。ここでは、本発明にかかる遊技機の適例としてのパチンコ遊技機について説明を行う。図1には、遊技盤の裏面図を示した。なお、遊技盤の前面側には、ガイドレールで囲まれ、遊技球を発射して遊技を行う遊技領域が形成されている。また、遊技機200の外枠であって島設備に固定される機枠や、遊技領域の前面を覆うクリア部材保持枠、遊技盤1を取り付ける前面枠、遊技領域の下側に設けられ遊技球を収容する上皿、下皿を有するとともに、遊技者が発射操作を行うための操作ハンドルを備えた操作パネルなどは図示を省略している。

【0022】

遊技盤1は、平板状の遊技盤本体1b（木製もしくは合成樹脂製）を備え、この遊技盤本体1bの裏面側に、各種部材が取り付けられる取付ベース2が取り付けられている。この取付ベース2の裏面における上側には、遊技機における演出を制御する演出制御装置などが取り付けられており、その裏面側は裏面カバー3により覆われている。また、取付ベース2の裏面における下側には、遊技機の動作制御などを行うことで遊技の進行を統括的に制御する遊技制御装置10（詳細後述）が基板ホルダ4を介して取り付けられている。

【0023】

以下に、遊技制御装置10について説明する。遊技制御装置10は、遊技機200の制御を行う遊技制御基板11（図4参照）を基板ボックス12に収納したものであって、取付ベース2に回動自在に軸着された基板ホルダ4に保持されて遊技盤1の背面側に取り付けられている。なお、遊技制御装置10は遊技盤1の背面に取り付けられ、該遊技盤1が前面枠に取り付けられることで、遊技機200の背面側から視認可能に配されている。よって、以下の説明では、図1に示すように、遊技機200の背面側に配された遊技制御装置10を遊技機200の背面側から見た状態を基準として、遊技機200の背面側から視認可能な面を前面（正面）、遊技盤1に取り付けられた側を後面とし、上下左右も遊技機200の背面側から見た状態での上下左右とする。

【0024】

図2から4に示すように、基板ボックス12は、遊技制御装置10の前面側を構成するとともに遊技制御基板11を収納する第1ボックス部材20と、後面側を構成する第2ボックス部材40とを備えている。そして、これらにより形成される収納空間13に遊技制御基板11を収納することで遊技制御基板11が基板ボックス12に完全に内包された状態となり、遊技制御基板11に対する不正行為を防止するようになっている。

【0025】

遊技制御基板11は、外形が略矩形状の基板であって、他の装置と接続するための複数のコネクタ11a、11a（一部を図示）が設けられているとともに、複数の電子部品11b、11b、…（一部を図示）が配されている。この遊技制御基板11においては、例えば、大当たりの抽選や、遊技の進行制御などの遊技に関する種々の処理がなされるようになっている。さらに、この基板ボックス12を構成する第1ボックス部材20、第2ボックス部材40は、透光性の合成樹脂で形成されており、内部に収納した遊技制御基板11を視認可能となっている。

【0026】

遊技制御装置10の裏面側を形成する第1ボックス部材20は、遊技制御装置10の裏面をなす略矩形状の裏面壁21と、該裏面壁21の前面側に矩形状の領域を形成するよう

10

20

30

40

50

に裏面壁 2 1 に対して垂直に立設された第 1 周囲壁 2 2 とを備えている。これら裏面壁 2 1 と第 1 周囲壁 2 2 とにより、遊技制御基板 1 1 を収納可能な凹室状の第 1 収納部 2 3 が形成される。

【0027】

また、遊技制御装置 1 0 の前面側を形成する第 2 ボックス部材 4 0 は、遊技制御装置 1 0 の前面をなす略矩形状の前面壁 4 1 と、該前面壁 4 1 の周囲を囲むように一側面側に垂直に突出し、該前面壁 4 1 の裏面側に矩形状の領域を形成するように立設された第 2 周囲壁 4 2 とを備えている。これら前面壁 4 1 と第 2 周囲壁 4 2 とにより、遊技制御基板 1 1 を収納可能な凹室状の第 2 収納部 4 3 が形成される。

【0028】

この第 1 ボックス部材 2 0 と第 2 ボックス部材 4 0 は、遊技制御基板 1 1 を第 1 収納部 2 3 に収納した状態で、第 1 収納部 2 3 と第 2 収納部 4 3 の開口した側が対向する向きで組み合わせることで、図 2, 3 に示すように、遊技制御基板 1 1 を内部に収納した閉鎖状態となるようになっている。ここで、第 2 収納部 4 3 を形成する第 2 周囲壁 4 2 の内周は、第 1 収納部 2 3 を形成する第 1 周囲壁 2 2 の外周と略等しく、閉鎖状態では第 2 周囲壁 4 2 が第 1 周囲壁 2 2 の外側に重なって、第 2 収納部 4 3 の内側に第 1 収納部 2 3 が収納された状態となり、閉鎖された収納空間 1 3 が形成される。

【0029】

また、第 1 ボックス部材 2 0 と第 2 ボックス部材 4 0 には、閉鎖状態において遊技制御基板 1 1 に設けられたコネクタ 1 1 a, 1 1 a … (一部を図示) と対応する位置に、コネクタ接続部 2 4, 4 4 が形成されている。このコネクタ接続部 2 4, 4 4 は、第 1 周囲壁 2 2 を貫通するように形成された第 1 コネクタ接続部 2 4 と、第 2 周囲壁 4 2 を貫通するように形成された第 2 コネクタ接続部 4 4 とからなる。この第 1 コネクタ接続部 2 4 および第 2 コネクタ接続部 4 4 は、基板ボックス 1 2 を閉鎖状態とすることで遊技制御基板 1 1 のコネクタが設けられた位置で一致するようになっており、これにより基板ボックス 1 2 の外部からコネクタ 1 1 a, 1 1 a … に配線を接続することが可能となる。

【0030】

また、第 1 ボックス部材 2 0 と第 2 ボックス部材 4 0 には、閉鎖状態で第 1 ボックス部材 2 0 と第 2 ボックス部材 4 0 とを固着するための固着手段 7 0 が設けられている。この固着手段 7 0 は、第 1 ボックス部材 2 0 に設けられたかしめ受部 7 1 と、第 2 ボックス部材 4 0 に設けられたかしめ部 7 5 とからなる。かしめ受部 7 1 は、裏面壁 2 1 の右側端から連結部 7 2 を介して右方へ突出するように複数設けられている。また、各かしめ受部 7 1 は上下方向に沿って並ぶように設けられている。この複数のかしめ受部 7 1 のそれぞれには、ねじを螺合するねじ止め部 7 3 が前後方向に沿って形成されている。また、かしめ部 7 5 は、第 2 ボックス部材 4 0 の右側に位置する第 2 周囲壁 4 2 から連結部 7 6 を介して右方へ突出するように複数設けられている。また各かしめ部 7 5 は上下方向に沿って並ぶように設けられている。この複数のかしめ部 7 5 のそれぞれには、かしめねじ 7 8 を挿通する挿通孔が前後方向に沿って形成されている。

【0031】

この複数のかしめ部 7 5 と複数のかしめ受部 7 1 は、基板ボックス 1 2 を閉鎖状態とすることにより一対一で対向するように配される。この状態で、かしめ部 7 5 の挿通孔に挿通したかしめねじ 7 8 を対向するかしめ受部 7 1 のねじ止め部 7 3 に螺合する。かしめねじ 7 8 は一方向 (螺合方向) にしか廻せないワンウェイねじであり、一旦螺合すると取り外すことができないものであって、これにより、第 1 ボックス部材 2 0 と第 2 ボックス部材 4 0 が固着されるようになっている。

【0032】

また、以上のように固着された第 1 ボックス部材 2 0 と第 2 ボックス部材 4 0 の固着を解除する場合は、第 1 ボックス部材 4 0 と隣設するかしめ受部 7 1 から固着に使用したかしめ受部 7 1 を切り離すように連結部 7 2 を切断する。もしくは、第 2 ボックス部材 4 0 と隣設するかしめ部 7 5 から固着に使用したかしめ部 7 5 を切り離すように連結部 7 6 を

10

20

30

40

50

切断する。すなわち、一度固着されたかしめ部 7 5 とかしめ受部 7 1 の固着を解除することができないので、基板ボックス 1 2 を開封する際には、このように固着手段 7 0 を不可逆的に破壊して開封する必要がある。これにより、基板ボックス 1 2 が容易に開封できなくなるとともに開封された履歴が残るようになり、不正行為を防止できる。また、このように開封した後に再び固着する場合は、未使用のかしめ部 7 5 とかしめ受部 7 1 を用いて上述した固着作業を行う。

【0033】

また、第 1 ボックス部材 2 0 と第 2 ボックス部材 4 0 には、基板ボックス 1 2 が開封されていないことを容易に確認できるようにするための開封確認手段 6 0 が設けられている。この開封確認手段 6 0 は、アンテナ部および該アンテナ部を介してデータを送受信するとともに固有の識別情報を記憶する IC チップを有する固有識別情報記憶手段をなす IC タグ 6 1 を備える。また、IC タグ 6 1 を取り付ける取付部 2 5 と、基板ボックス 1 2 が閉鎖状態から開放状態に変換された際に IC タグ 6 1 を破壊する破壊手段 6 2 を備える。

【0034】

第 1 ボックス部材 2 0 の第 1 周囲壁 2 2 には、閉鎖状態において第 2 周囲壁 4 2 と対向する面に IC タグ 6 1 を取り付けるための取付部 2 5 が設けられている。なお、第 1 周囲壁 2 2 は、基板ボックス 1 2 を閉鎖状態から開放状態に変換する際に第 1 ボックス部材 2 0 に対して第 2 ボックス部材 4 0 が移動する方向である開放方向をなす前後方向に沿って形成されている。すなわち、第 1 周囲壁 2 2 が、基板ボックス 1 2 を閉鎖状態から開放状態に変換する際に、第 1 ボックス部材 2 0 に対して第 2 ボックス部材 4 0 が移動する方向である開放方向に沿った第 1 壁部をなす。そして、この第 1 壁部をなす第 1 周囲壁 2 2 に固有識別情報記憶手段をなす IC タグ 6 1 を取り付ける取付部 2 5 が備えられている。また、取付部 2 5 には溝状の案内部 2 6 が形成されている。この溝状の案内部 2 6 も開放方向をなす前後方向に沿って延在するように形成されている。

【0035】

また、図 5 に示すように、第 2 ボックス部材 4 0 の第 2 周囲壁 4 2 には、閉鎖状態において取付部 2 5 と対向する面であって溝状の案内部 2 6 と対応する位置に、破壊手段 6 2 をなす二つの破壊用突起部 4 5 が左右方向に並ぶように形成されている。この破壊用突起部 4 5 は、取付部 2 5 に取り付けられた IC タグ 6 1 を破壊することができるよう、取付部 2 5 側に向かって突出するように形成されているとともに、先端部が尖った形状とされている。また、先端部の第 2 周囲壁 4 2 からの突出幅は、閉鎖状態において先端部が溝状の案内部 2 6 に収容されるような突出幅となっている。すなわち、先端部の第 2 周囲壁 4 2 からの突出幅は、第 2 周囲壁 4 2 から取付部 2 5 に取り付けられた IC タグ 6 1 までの距離よりも長く、取付部 2 5 に取り付けられた IC タグ 6 1 を確実に破壊できるようになっている。

【0036】

また、第 2 ボックス部材 4 0 の第 2 周囲壁 4 2 には、閉鎖状態において取付部 2 5 と対向する位置であって破壊用突起部 4 5 に対して開放方向側となる位置に取付用開口部 4 6 が形成されている。この取付用開口部 4 6 は、閉鎖状態において取付部 2 5 に IC タグ 6 1 を取り付けるためのものであって、第 2 周囲壁 4 2 を貫通するように形成されている。また、取付用開口部 4 6 は基板ボックス 1 2 の外側へ向かって拡径するように形成されており、取付部 2 5 に IC タグ 6 1 を取り付ける作業が容易になるようにされている。また、この取付用開口部 4 6 には、カバー部材 6 3 が取り付けられるようになっている。このカバー部材 6 3 は、第 2 周囲壁 4 2 の厚みと略同じ厚みを有するとともに、基板ボックス 1 2 の外側に拡径するように形成された取付用開口部 4 6 の形状に合わせて形成されており、取付用開口部 4 6 にちょうど嵌るようになっている。また、カバー部材 6 3 における基板ボックス 1 2 の外側に位置する側にはねじ止め部 6 3 a、6 3 a が形成されており、第 2 周囲壁 4 2 の外側の面にねじによって着脱可能に固定できるようにされている。

【0037】

以上のことから、第 2 ボックス部材 4 0 は、閉鎖状態で取付部 2 5 が形成された第 1 ボ

ックス部材 20 の第 1 壁部（第 1 周囲壁 22）を外側から覆う第 2 壁部（第 2 周囲壁 42）を有し、該第 2 壁部には、取付部 25 における固有識別情報記憶手段（IC タグ 61）の配設位置と対向する位置に、固有識別情報記憶手段を取り付けるための取付用開口部 46 を、当該第 2 壁部を貫通するように形成し、取付用開口部 46 に、該取付用開口部 46 を閉鎖して取付部に取り付けられた固有識別情報記憶手段を覆うカバー部材 63 を着脱可能に取り付けたこととなる。

【0038】

また、取付用開口部 46 は、基板ボックス 12 の外側へ向かって拡径するように形成されていることとなる。

【0039】

また、取付用開口部 46 は、破壊用突起部 45 に対して開放方向側に形成されていることとなる。

【0040】

図 6 には、基板ボックス 12 を開放状態から閉鎖状態とする際の作業の手順を示した。基板ボックス 12 を閉鎖状態とする際には、まず、遊技制御基板 11 を第 1 ボックス部材 20 の第 1 収納部 23 に収納した状態で、図 6（a）に示すように、第 2 ボックス部材 40 を前方から取り付ける。これにより、図 6（b）に示すように、第 2 収納部 43 が第 1 収納部 23 を収納するように重なり、遊技制御基板 11 が基板ボックス 12 に内包された閉鎖状態となる。この閉鎖状態とする過程においては、破壊用突起部 45 の先端部は溝状の案内部 26 内を前端から後端へ移動する。このため IC タグ 61 は、基板ボックス 12 を閉鎖状態とした後に取り付ける必要がある。

【0041】

図 6（b）に示す状態では、取付用開口部 46 が取付部 25 と対向する位置にあって、取付用開口部 46 を介して取付部 25 が基板ボックス 12 の外側に臨む状態となっており、この状態で図 6（c）に示すように、取付部 25 に IC タグ 61 を取り付ける。このとき、IC タグ 61 は取付部 25 に形成された溝状の案内部 26 を覆うように取り付ける。これにより、IC タグ 61 が破壊用突起部 45 に対して開放方向側に配されることとなり、基板ボックス 12 を閉鎖状態から開放状態に変換する際には破壊用突起部 45 が IC タグ 61 を破壊することとなる。なお、一度取り付けた IC タグ 61 は、取り外し作業を行うと破壊されて外部から固有識別情報を読み取ることができない状態となるようにされている。さらにこの後、カバー部材 63 を取付用開口部 46 に取り付けて取付用開口部 46 を閉鎖する。なお、カバー部材 63 はねじによって取り付けられ、第 2 ボックス部材 40 に対して着脱可能となるように取り付けられる。また、基板ボックス 12 を閉鎖状態とした後には、固着手段 70 により第 1 ボックス部材 20 と第 2 ボックス部材 40 とを固着する作業も行う。

【0042】

以上のように、固有識別情報記憶手段をなす IC タグ 61 を一方のボックス部材である第 1 ボックス部材 20 にのみ配したので、基板ボックス 12 の搬送作業や取り付け作業を行う際に何らかの衝撃や揺れによりボックス部材どうしにずれが生じても、IC タグ 61 が破壊されてしまうことはない。特に、開放方向以外へのずれによって IC タグ 61 が破壊されることはない。また、開放方向へのわずかなずれによっても IC タグ 61 が破壊されることはない。IC タグ 61 を破壊するための破壊手段 62 を備えていることから、単に開封する際の力によって破壊される IC タグ 61 に比べ強度の高い IC タグ 61 を用いることもでき、開放方向へのずれによって IC タグ 61 が破壊されることを防止できる。さらに、基板ボックス 12 を開放する方向に対しては、不正行為の防止のために固着手段 70 等によりずれが生じないように固着されるため、開放方向へのずれによって IC タグ 61 が破壊されることはない。また、取付用開口部 46 に、該取付用開口部 46 を閉鎖して取付部 25 に取り付けられた IC タグ 61 を覆うカバー部材 63 を着脱可能に取り付けたので、搬送作業や取り付け作業時等における接触により IC タグ 61 が破損することもない。

10

20

30

40

50

【0043】

このように閉鎖状態とされた基板ボックス12を開放状態とする際には、まず、固着手段70による固着を解除する。そして、第1ボックス部材20に対して第2ボックス部材40を開放方向に移動させる。このとき、破壊用突起部45が溝状の案内部26に沿って前側へ（開放方向側へ）移動し、取付部25において溝状の案内部26を覆うように取り付けられたICタグ61を読み取り不能となるように破壊する。これにより、記憶された固有識別情報を外部から読み取ることができない状態となる。なお、破壊する部分は、固有の識別情報が記憶されたICチップと、外部の装置と固有の識別情報の通信を行うためのアンテナ部の何れか一方または両方である。

【0044】

すなわち、基板ボックス12が開封されていないければICタグ61に記憶された固有識別情報を外部から読み取ることができ、開封されるとICタグ61に記憶された固有識別情報を外部から読み取ることができなくなる。これにより、開封確認手段60によって基板ボックス12が開封されているか否かを簡単に確認できるようになる。

【0045】

なお、遊技制御基板11の検査などのために基板ボックス12を開封するとICタグ61が破壊されてしまうため、再度閉鎖する場合は破壊されたICタグ61を取り除き、閉鎖状態とした後に別のICタグ61を取り付ける。また、このとき取り付けるICタグ61には、例えば、検査済みである旨の情報や、開封に関する情報（回数や日時など）を記憶したものを取り付けるようにすることが好ましい。また、遊技制御基板11を収納する基板ボックス12について説明したが、その他の制御基板を収納する基板ボックスについて本発明を適用するようにしても良い。また、閉鎖状態では第2周囲壁42が第1周囲壁22の外側に重なって、第2収納部43の内側に第1収納部23が収納された状態となっていたが、これに限られるものではない。すなわち、少なくとも閉鎖状態で第1ボックス部材20における取付部25が形成された第1壁部をなす所定個所と、第2ボックス部材40における破壊手段62が形成された第2壁部をなす所定個所とが対向して重なっていればよい。よって、第1壁部が基板ボックス12の内側で第2壁部が基板ボックス12の外側にあるとした位置関係が逆であっても良いし、両方とも外側に位置していても良い。

【0046】

また、開封確認手段60に隣接する位置に、または、開封確認手段60に、基板ボックス12を閉鎖状態から開放状態に変換する際に第1ボックス部材20と第2ボックス部材40とが離れないようにする離隔防止手段を設けるようにしても良い。この離隔防止手段としては、例えば、第2ボックス部材40側に係合部を設け、第1ボックス部材20側の対応する位置には、係合部を係合した状態で開放方向に沿って案内するように開放方向に沿って平行に形成した被係合部を設けるようにする。このような離隔防止手段を設けることで、開放状態への変換の際に破壊手段62によりICタグ61が確実に破壊されるようになる。また、開放状態への変換の際に第2ボックス部材40を第1ボックス部材20から引き離し、破壊手段62がICタグ61に接触しないようにしてICタグ61の破壊を逃れようとする不正行為を防止できる。また、このような離隔防止手段を備えなくても開封確認手段60を基板ボックス12の角部にもしくは角部に隣接して設けることで、第2ボックス部材40を第1ボックス部材20から引き離しにくくなり、不正行為を防止することができる。

【0047】

以上のことから、複数の電子部品11b, 11b, …を搭載した基板（遊技制御基板11）と、該基板を収納する基板ボックス12と、を備えた遊技機200において、基板ボックス12は、第1ボックス部材20と、第2ボックス部材40と、を備え、第1ボックス部材20と第2ボックス部材40とを接合して基板を収納する収納空間13を形成する閉鎖状態と、第1ボックス部材20と第2ボックス部材40との接合を解除して収納空間13を開放した開放状態と、に変換できるように構成され、第1ボックス部材20に固有の識別情報が記憶された固有識別情報記憶手段（ICタグ61）を備え、第2ボックス部

10

20

30

40

50

材４０に固有識別情報記憶手段を破壊するための破壊手段６２を備え、閉鎖状態から開放状態に変換することに伴い、破壊手段が固有識別情報記憶手段を読み取り不能となるように破壊するようにしたこととなる。

【００４８】

また、第１ボックス部材２０は、閉鎖状態から開放状態に変換する際に第１ボックス部材２０に対して第２ボックス部材４０が移動する方向である開放方向に沿った第１壁部（第１周囲壁２２）を備え、該第１壁部に固有識別情報記憶手段（ＩＣタグ６１）を取り付ける取付部２５を備え、第２ボックス部材４０は、破壊手段６２として閉鎖状態において取付部２５と対向する位置に、取付部２５へ向かって延出する破壊用突起部４５を備え、取付部２５における破壊用突起部４５と対応する位置に、該破壊用突起部４５を受け入れる案内部２６を、開放方向に沿って延在するように形成し、閉鎖状態において取付部２５には、閉鎖状態から開放状態に変換する際に破壊用突起部４５が通過する位置に、案内部２６を覆うように固有識別情報記憶手段を配設し、基板ボックス１２を閉鎖状態から開放状態に変換する際に、破壊用突起部４５が案内部２６に沿って移動して取付部２５に取り付けられた固有識別情報記憶手段を読み取り不能となるように破壊するようにしたこととなる。

10

【００４９】

また、第２ボックス部材４０は、閉鎖状態で取付部２５が形成された第１ボックス部材２０の第１壁部（第１周囲壁２２）を外側から覆う第２壁部（第２周囲壁４２）を有し、該第２壁部には、取付部２５における固有識別情報記憶手段（ＩＣタグ６１）の配設位置と対向する位置に、固有識別情報記憶手段を取り付けるための取付用開口部４６を、当該第２壁部を貫通するように形成し、取付用開口部４６に、該取付用開口部４６を閉鎖して取付部に取り付けられた固有識別情報記憶手段を覆うカバー部材６３を着脱可能に取り付けたこととなる。

20

【００５０】

次に、上述した実施形態の遊技機の第１変形例について図７から１１を参照して説明する。なお、基本的には、上述の実施形態の遊技機と同様の構成を有しており、以下、同様の構成を有する部分については同じ符号を付して説明を省略し、主に異なる部分について説明する。本変形例の遊技機は、基板ボックスの開閉方法が異なる。

【００５１】

本変形例の基板ボックス８０は、第１ボックス部材２０に対して第２ボックス部材４０を前後方向に組み合わせた後、第１ボックス部材２０に対して第２ボックス部材４０を左右方向に沿ってスライドさせることで閉鎖状態となるようにされている。すなわち、基板ボックス８０を閉鎖状態から開放状態に変換する際に第１ボックス部材２０に対して第２ボックス部材４０が移動する方向である開放方向には前後方向と左右方向とが含まれる。

30

【００５２】

図７に示すように、第２ボックス部材４０の第２周囲壁４２における外側の面には、第１ボックス部材２０と第２ボックス部材４０との接合を案内するための構成として、スライド係合部８１が側方へ突出するように設けられている。また、第１ボックス部材２０には、第１ボックス部材２０と第２ボックス部材４０との接合を案内するための構成として、スライド係合部８１と対応する位置に該スライド係合部８１を受け入れて案内するＬ字状のスリット８３が形成されたスライド係合受部８２が形成されている。Ｌ字状のスリット８３は、前方に開口するように一端部が位置しており、ここから前後方向に沿って後方へ延在し、さらに直角に左方へ屈折して左右方向に沿って延在するように形成されている。よって、このスリット８３に沿ってスライド係合部８１を移動させることで基板ボックス８０を開閉できるようになっている。

40

【００５３】

また、固有識別情報記憶手段をなすＩＣタグ６１を取り付ける取付部２５に形成された溝状の案内部２６も基板ボックス８０の開閉方法に合わせて、前後方向に延在する第１案内部８４と、該第１案内部８４に連続して左方に延在する第２案内部８５とからＬ字状に

50

なるように構成されている。ここで、第2ボックス部材40に形成された破壊手段62をなす二つの破壊用突起部45は、前後方向に沿って並ぶように形成されている。よって、案内部26のうち、前後方向に沿って延在する第1案内部84は一条となっているが、左右方向に沿って延在する第2案内部85は二条となっている。また、第2ボックス部材40に形成される取付用開口部46は、閉鎖状態において取付部25と対向する位置であって、破壊用突起部45に対して開放方向側となる位置である破壊用突起部45の右方に形成されている。

【0054】

図10には、このような構成を有する基板ボックス80を開放状態から閉鎖状態とする際の作業の手順を示した。基板ボックス80を閉鎖状態とする際には、まず、遊技制御基板11を第1ボックス部材20の第1収納部23に収納した状態で、図10(a)、(b)に示すように、第2ボックス部材40を前方から取り付ける。このとき、スライド係合部81をスライド係合受部82のスリット83に挿入するように取り付けることで、破壊用突起部45も第1案内部84に挿入されるとともに溝状の第1案内部84内を前端から後端へ移動する。

【0055】

その後、図10(c)に示すように、第1ボックス部材20に対して第2ボックス部材40を左方にスライドさせることで、第2収納部43が第1収納部23を収納するように重なり、図8、9に示すように、遊技制御基板11が基板ボックス80に内包された閉鎖状態となる。この閉鎖状態とする過程においては、破壊用突起部45の先端部は溝状の第2案内部85内を右端から左端へ移動する。このためICタグ61は、基板ボックス12を閉鎖状態とした後に取り付ける必要がある。

【0056】

閉鎖状態では取付用開口部46が取付部25と対向する位置にあって、取付用開口部46を介して取付部25が基板ボックス80の外側に臨む状態となっており、この状態で図10(d)に示すように、取付部25にICタグ61を取り付ける。このとき、ICタグ61は取付部25に形成された溝状の案内部26のうち第2案内部85を覆うように取り付ける。これにより、ICタグ61が破壊用突起部45に対して開放方向側に配されることとなり、基板ボックス80を閉鎖状態から開放状態に変換する際には破壊用突起部45がICタグ61を破壊することとなる。さらにこの後、カバー部材63を取付用開口部46に取り付けて取付用開口部46を閉鎖する。なお、カバー部材63はねじによって取り付けられ、第2ボックス部材40に対して着脱可能となるように取り付けられる。また、基板ボックス80を閉鎖状態とした後には、固着手段70により第1ボックス部材20と第2ボックス部材40とを固着する作業も行う。

【0057】

このように閉鎖状態とされた基板ボックス80を開放状態とする際には、まず、固着手段70による固着を解除する。そして、第1ボックス部材20に対して第2ボックス部材40を右方向へ移動させる。このとき、破壊用突起部45が溝状の第2案内部85に沿って右側へ（開放方向側へ）移動し、取付部25において溝状の第2案内部85を覆うように取り付けられたICタグ61を破壊する。これにより、記憶された固有識別情報を外部から読み取ることができない状態となる。その後、第1ボックス部材20に対して第2ボックス部材40を前方向へ移動させることで開放状態とすることができる。

【0058】

なお、上述の実施形態の場合と同様に、二つの破壊用突起部45を左右方向に沿って並ぶように形成しても良く、この場合は第1案内部84を二条とし、第2案内部85は一条とする。このようにすれば、閉鎖状態において破壊用突起部45がICタグ61から退避した場所に収納されるようになるため、搬送作業や取り付け作業時等の衝撃等により、固有識別情報記憶手段が破損することをより確実に防止できる。つまり、第1ボックス部材20に対して第2ボックス部材40が単に前後、左右、上下にずれただけではICタグ61が破壊されることがなく、基板ボックス80を開封する際の動作である、左右方向にス

ライドした後に前後方向にスライドするという二段階のスライド動作によってのみ I C タグ 6 1 が破壊されるようになる。

【0059】

すなわち、基板ボックス 8 0 を閉鎖状態から開放状態に変換する際に第 1 ボックス部材 2 0 に対して第 2 ボックス部材 4 0 を第 1 の方向に移動した後、該第 1 の方向とは異なる第 2 の方向に移動することで開放状態となるように構成し、第 2 の方向に移動した際に破壊手段 6 2 が固有識別情報記憶手段を読み取り不能となるように破壊するようにしても良い。

【0060】

また、図 1 1 に示すように、本変形例の基板ボックス 8 0 において、第 2 ボックス部材 4 0 の第 2 収納部 4 3 に内壁 8 6 を形成するようにしても良い。この内壁 8 6 は、前面壁 4 1 の裏面から垂直に後方へ延出するように上下方向に沿って形成されている。また内壁 8 6 は、基板ボックス 8 0 を開放状態から閉鎖状態とする際に第 1 ボックス部材 2 0 に対して第 2 ボックス部材 4 0 をスライド移動する側である左側にある第 2 周囲壁 4 2 から、左右方向へのスライド幅の分だけ離れた位置に形成されている。また内壁 8 6 は、上下の第 2 周囲壁 4 2 の内面とは第 1 周囲壁 2 2 の厚みの分だけ間隔をおいて形成されている。

【0061】

この内壁 8 6 は、第 1 ボックス部材 2 0 に対して第 2 ボックス部材 4 0 を前方から取り付けた際に、第 1 収納部 2 3 の内側に挿入される。このとき、第 2 周囲壁 4 2 の内面と内壁 8 6 の端部の間に第 1 周囲壁 2 2 が挿入される。その後、第 1 ボックス部材 2 0 に対して第 2 ボックス部材 4 0 を左方にスライドさせ閉鎖状態とすると、左側にある第 1 周囲壁 2 2 の右側に隣接して配される。これにより、基板ボックス 8 0 の左端部において、第 1 ボックス部材 2 0 と第 2 ボックス部材 4 0 との間から収納空間 1 3 に収納された遊技制御基板 1 1 を不正に操作するための部材等が挿入されることを防止できる。

【0062】

次に、上述した実施形態の遊技機の第 2 変形例について図 1 2 から 1 4 を参照して説明する。なお、基本的には、上述の実施形態の遊技機と同様の構成を有しており、以下、同様の構成を有する部分については同じ符号を付して説明を省略し、主に異なる部分について説明する。本変形例の遊技機は、開封確認手段 6 0 の構成が異なる。

【0063】

本変形例の基板ボックス 9 0 は、上述の実施形態の基板ボックス 1 2 と同様に、基板ボックス 9 0 を閉鎖状態から開放状態に変換する際には、第 1 ボックス部材 2 0 に対して第 2 ボックス部材 4 0 を前後方向に沿って移動させるようになっている。すなわち、開放方向は前後方向となっている。

【0064】

図 1 2 に示すように、取付部 2 5 に形成された案内部 2 6 は、開放方向である前後方向に沿って延在するよう形成されている。また、案内部 2 6 は、左右に隣接するように、左案内部 9 1、中案内部 9 2、右案内部 9 3 の三条が形成されている。さらに、各案内部 9 1、9 2、9 3 は、第 1 周囲壁 2 2 を貫通するようにスリット状に形成されている。また、図 1 4 に示すように、破壊手段 6 2 をなす破壊用突起部 4 5 は、第 2 周囲壁 4 2 から第 1 ボックス部材 2 0 側へ向かって延出する第 1 延出部 9 4 と、該第 1 延出部 9 4 の左右に連続するよう形成された第 2 延出部 9 5、9 5 を有し、第 2 ボックス部材 4 0 の前方から見て略 W 字状に形成されている。

【0065】

このような案内部 2 6 及び破壊用突起部 4 5 を有する基板ボックス 9 0 を図 1 3 に示すように閉鎖状態とすると、図 1 4 に示すように第 1 延出部 9 4 が三条ある案内部のうち中案内部 9 2 に挿入され、第 1 ボックス部材 2 0 の内側に突出するようになる。また、第 1 延出部 9 4 の左右にある第 2 延出部 9 5、9 5 は、第 1 ボックス部材 2 0 の内側から三条ある案内部のうち左案内部 9 1、右案内部 9 3 のそれぞれに挿入されて第 2 ボックス部材 4 0 側へ突出するようになる。

【0066】

これらの破壊用突起部45をなす第1延出部94及び第2延出部95、95は、閉鎖状態において、取付部25に各案内部91、92、93を覆うように取り付けられたICタグ61と上下に重なるように配されている。よって、第1ボックス部材20に対して第2ボックス部材40を開放方向に移動させると、第1延出部94及び第2延出部95、95が各案内部91、92、93に沿って前側へ（開放方向側へ）移動し、取付部25に取り付けられたICタグ61を破壊する。これにより、記憶された固有識別情報を外部から読み取ることができない状態となる。このような構成とすることで、破壊用突起部45が確実に案内部26により案内されるようになり、閉鎖状態から開放状態に変換することに伴い、確実に固有識別情報記憶手段をなすICタグ61が破壊されるので、不正な基板ボックス90の開放や、内包される基板に対する不正行為を確実に防止できる。

10

【0067】

以上のことから、案内部26を、第1壁部（第1周囲壁22）を貫通するように複数形成し、破壊用突起部45は、案内部26を介して、第2ボックス部材40から第1ボックス部材20の内側へ延出する第1延出部94と、該第1延出部94に連続し、該第1延出部94が貫通する案内部26以外の案内部26を介して第1ボックス部材20の内側から第2ボックス部材40側へ延出する第2延出部95と、を備えたこととなる。

【0068】

なお、開封確認手段60の別の構成として、破壊手段62をなす破壊用突起部45を、第2周囲壁42から第1ボックス部材20側へ向かって延出する第1延出部と、該第1延出部の左右に突出するように連続する第2延出部とから構成し、第2ボックス部材40の前方から見て略T字状に形成する。さらに、破壊用突起部46の突出方向側の先端には、固有識別情報記憶手段をなすICタグ61を読み取り不能となるように破壊する構成を備えるようにする。また、第1周囲壁22の取付部25に形成する案内部26を、上述のような構成を有する破壊用突起部45がちょうど嵌るように第1ボックス部材20の前方から見て略T字状に形成する。この案内部26は、前後方向に沿って延在し、かつ、第1周囲壁22の前端に開口するようにする。また、案内部26は第1収納部23内には貫通せず、第2ボックス部材40と対向する面には、第1延出部は通過可能であるが該第1延出部の左右に突出した第2延出部は通過できない幅の間隙部を備えるようにする。

20

【0069】

このような構成を備えた開封確認手段60では、基板ボックスが閉鎖状態では略T字状の破壊用突起部45が略T字状の案内部26に嵌って係合した状態となる。この閉鎖状態で取付用開口部46および略T字状の案内部26に形成される間隙部を介してICタグ61を案内部26内に取り付ける。なお、案内部26内におけるICタグ61の取り付け位置は、破壊用突起部45におけるICタグ61を破壊する構成を備えた突出方向側の先端と対向する位置とする。

30

【0070】

このような構成によっても、第1ボックス部材20に対して第2ボックス部材40を開放方向に移動させると、破壊用突起部45が案内部26に沿って前側へ（開放方向側へ）移動し、ICタグ61が読み取り不能となるように破壊される。特に、破壊用突起部45が案内部26に係合した状態となっているので、開放状態とする際に第2ボックス部材40を第1ボックス部材20から引き離してICタグ61の破壊を逃れようとする不正行為を防止できる。なお、このような構成を有する開封確認手段60を基板ボックスの角部に備えることで、より第2ボックス部材40を第1ボックス部材20から引き離しにくくなり、不正行為をより確実に防止することができる。

40

【0071】

次に、上述した実施形態の遊技機の第3変形例について図15、16を参照して説明する。なお、基本的には、上述の実施形態の遊技機と同様の構成を有しており、以下、同様の構成を有する部分については同じ符号を付して説明を省略し、主に異なる部分について説明する。本変形例の遊技機は、開封確認手段60の構成が異なる。

50

【0072】

本変形例の基板ボックス100は、上述の実施形態の基板ボックス12と同様に、基板ボックス100を閉鎖状態から開放状態に変換する際には、第1ボックス部材20に対して第2ボックス部材40を前後方向に沿って移動させるようになっている。すなわち、開放方向は前後方向となっている。

【0073】

図16に示すように、破壊手段62をなす破壊用突起部45は、上述の実施形態における基板ボックス12と同様に、第2ボックス部材40の第2周囲壁42における、閉鎖状態において取付部25と対向する面であって溝状の案内部26と対応する位置に左右方向に並ぶように二つ形成されている。この破壊用突起部45は、第2周囲壁42に上下方向に沿って形成された取付用凹部102と、取付用凹部102に付勢部材103とともに配された突出部材104とから構成されている。そして、突出部材104が取付部25側に突出した突出状態と、第2周囲壁42側へ退縮した退避状態と、に変換可能となっており、常時、付勢部材103によって突出状態となる方向である上方向に付勢されている。なお突出状態では、突出部材104が取付部25側に突出して先端部が溝状の案内部26に収容されて、基板ボックス100の開放状態への変換により固有識別情報記憶手段をなすICタグ61を破壊可能な状態となる。また、退避状態では、突出部材104が第2周囲壁42側へ退縮し、基板ボックス100開放状態への変換によってもICタグ61を破壊不能な状態となる。

【0074】

また、突出部材104の取付用開口部46側の側部には被係合部105が形成されている。この被係合部105には、取付用開口部46に取り付けられる仮設カバー部材106に形成された係合部107が係合するようになっている。この仮設カバー部材106は、取付用開口部46を閉鎖可能な大きさの板状の部材で、破壊用突起部45が設けられた側に配される端部に、上述の突出部材104に形成された被係合部105と係合する係合部107が形成されている。

【0075】

仮設カバー部材106は、例えば、遊技制御基板11の検査時のように正規に基板ボックス100を開封する場合に、ICタグ61を破壊することなく開封できるようにするためのものである。この仮設カバー部材106を取り付ける際には、まず図16に示すように係合部107を被係合部105に係合するようにした状態で取付用開口部46に挿入する。その後、図16(b)に示すように、仮設カバー部材106を取付用開口部46に嵌め込む。この状態では仮設カバー部材106が図示しない固定手段により固定されるようになっている。破壊用突起部45の突出部材104が退避状態で保持される。よって、この状態で基板ボックス100を開封すればICタグ61を破壊せずに開封することができる。

【0076】

なお、遊技機200の使用時には係合部107を有しない上述したカバー部材63を取り付けることで、破壊用突起部45は突出状態となり、基板ボックス100を閉鎖状態から開放状態に変換することに伴い、ICタグ61が破壊されるようになるので、不正な基板ボックス100の開放や内包される基板に対する不正行為を防止できる。

【0077】

以上のことから、破壊用突起部45は取付部25側に突出し、開放状態への変換により固有識別情報記憶手段(ICタグ61)を破壊可能な突出状態と、第2壁部(第2周囲壁42)側へ退縮し、開放状態への変換によっても固有識別情報記憶手段を破壊不能な退避状態と、に変換可能であり、付勢部材103により突出状態となる方向に付勢されており、破壊用突起部45における取付用開口部46側の側部に被係合部105を形成し、取付用開口部46を閉鎖して取付部25に取り付けられた固有識別情報記憶手段を覆う仮設カバー部材106に、被係合部105に係合する係合部107を設け、仮設カバー部材106を、係合部107が破壊用突起部45の被係合部105に係合した状態で取付用開口部

46に取り付けることで、破壊用突起部が退避状態に変換されるようにしたこととなる。

【0078】

以上のような遊技機200は、複数の電子部品11b, 11b, …を搭載した基板（遊技制御基板11）と、該基板を収納する基板ボックス12と、を備えた遊技機200であって、基板ボックス12は、第1ボックス部材20と、第2ボックス部材40と、を備え、第1ボックス部材20と第2ボックス部材40とを接合して基板を収納する収納空間13を形成する閉鎖状態と、第1ボックス部材20と第2ボックス部材40との接合を解除して収納空間13を開放した開放状態と、に変換できるように構成され、第1ボックス部材20に固有の識別情報が記憶された固有識別情報記憶手段（ICタグ61）を備え、第2ボックス部材40に固有識別情報記憶手段を破壊するための破壊手段62を備え、閉鎖状態から開放状態に変換することに伴い、破壊手段が固有識別情報記憶手段を読み取り不能となるように破壊するようにしている。

10

【0079】

したがって、第1ボックス部材20に固有の識別情報が記憶された固有識別情報記憶手段を備え、第2ボックス部材40に固有識別情報記憶手段を破壊するための破壊手段を備え、閉鎖状態から開放状態に変換することに伴い、破壊手段62が固有識別情報記憶手段を読み取り不能となるように破壊するようにしたので、搬送作業や取り付け作業時等の衝撃等により、固有識別情報記憶手段が破損することを防止できる。すなわち、固有識別情報記憶手段が一方のボックス部材にのみ配され、閉鎖状態から開放状態に変換することに伴い、破壊手段が固有識別情報記憶手段を破壊するので、基板ボックス12の搬送作業や取り付け作業を行う際に何らかの衝撃や揺れによりボックス部材どうしにずれが生じて、固有識別情報記憶手段が破壊されてしまうことがない。特に、開放方向以外へのずれによって固有識別情報記憶手段が破壊されることはない。また、固有識別情報記憶手段を破壊するための破壊手段62を備えていることから、単に開封する際の力によって破壊される固有識別情報記憶手段に比べ強度の高い固有識別情報記憶手段を用いることもでき、開放方向へのずれによって固有識別情報記憶手段が破壊されることを防止できる。また、閉鎖状態から開放状態に変換することに伴い破壊手段が固有識別情報記憶手段を破壊するので、不正な基板ボックス12の開放や、内包される基板に対する不正行為を防止できる。

20

【0080】

また、第1ボックス部材20は、閉鎖状態から開放状態に変換する際に第1ボックス部材20に対して第2ボックス部材40が移動する方向である開放方向に沿った第1壁部（第1周囲壁22）を備え、該第1壁部に固有識別情報記憶手段（ICタグ61）を取り付ける取付部25を備え、第2ボックス部材40は、破壊手段62として閉鎖状態において取付部25と対向する位置に、取付部25へ向かって延出する破壊用突起部45を備え、取付部25における破壊用突起部45と対応する位置に、該破壊用突起部45を受け入れる案内部26を、開放方向に沿って延在するように形成し、閉鎖状態において取付部25には、閉鎖状態から開放状態に変換する際に破壊用突起部45が通過する位置に、案内部26を覆うように固有識別情報記憶手段を配設し、基板ボックス12を閉鎖状態から開放状態に変換する際に、破壊用突起部45が案内部26に沿って移動して取付部25に取り付けられた固有識別情報記憶手段を読み取り不能となるように破壊するようにしている。

30

40

【0081】

したがって、取付部25における破壊用突起部45と対応する位置に、該破壊用突起部45を受け入れる案内部26を開放方向に沿って延在するように形成し、閉鎖状態において取付部25には開放状態に変換する際に破壊用突起部45が通過する位置に、案内部26を覆うように固有識別情報記憶手段を配設し、基板ボックス12を開放状態に変換する際に、破壊用突起部45が案内部26に沿って移動して取付部25に取り付けられた固有識別情報記憶手段を読み取り不能となるように破壊するようにしたので、搬送作業や取り付け作業時等の衝撃等により、固有識別情報記憶手段が破損することを防止できる。すなわち、基板ボックス12を開放する方向に破壊用突起部45が移動した場合にのみ固有識別情報記憶手段が破壊されるので、基板ボックス12の搬送作業や取り付け作業を行う際

50

に何らかの衝撃や揺れによりボックス部材どうしにずれが生じても、固有識別情報記憶手段が破壊されてしまうことがない。なお、基板ボックス１２を開放する方向に対しては不正行為の防止のために固着手段７０等によりずれが生じないように固着されるため、このような構成としても不都合が生じることがない。また、案内部２６により破壊用突起部４５が案内されることで、閉鎖状態から開放状態に変換することに伴い、確実に固有識別情報記憶手段が破壊されるので、不正な基板ボックス１２の開放や、内包される基板に対する不正行為を防止できる。

【００８２】

また、第２ボックス部材４０は、閉鎖状態で取付部２５が形成された第１ボックス部材２０の第１壁部（第１周囲壁２２）を外側から覆う第２壁部（第２周囲壁４２）を有し、該第２壁部には、取付部２５における固有識別情報記憶手段（ＩＣタグ６１）の配設位置と対向する位置に、固有識別情報記憶手段を取り付けるための取付用開口部４６を、当該第２壁部を貫通するように形成し、取付用開口部４６に、該取付用開口部４６を閉鎖して取付部に取り付けられた固有識別情報記憶手段を覆うカバー部材６３を着脱可能に取り付けている。

10

【００８３】

したがって、第２ボックス部材４０は、閉鎖状態で取付部２５が形成された第１ボックス部材２０の第１壁部を外側から覆う第２壁部を有し、該第２壁部には、取付部２５における固有識別情報記憶手段の配設位置と対向する位置に、固有識別情報記憶手段を取り付けるための取付用開口部４６を、当該第２壁部を貫通するように形成したので、閉鎖状態で取付部２５に固有識別情報記憶手段を取り付けることができる。また、取付用開口部４６に、該取付用開口部４６を閉鎖して取付部２５に取り付けられた固有識別情報記憶手段を覆うカバー部材６３を着脱可能に取り付けたので、搬送作業や取り付け作業時等において固有識別情報記憶手段が破損することを防止できる。

20

【００８４】

また、取付用開口部４６は、基板ボックス１２の外側へ向かって拡張するように形成されている。

【００８５】

したがって、取付用開口部４６は、基板ボックス１２の外側へ向かって拡張するように形成されているので、固有識別情報記憶手段の取付作業が容易になる。

30

【００８６】

また、取付用開口部４６は、破壊用突起部４５に対して開放方向側に形成されている。

【００８７】

したがって、取付用開口部４６は、破壊用突起部４５に対して開放方向側に形成されているので、基板ボックス１２を閉鎖状態から開放状態に変換する際に破壊用突起部４５が通過する取付部２５の所定位置に固有識別情報記憶手段を閉鎖状態において配設することができる。

【００８８】

また、案内部２６を、第１壁部（第１周囲壁２２）を貫通するように複数形成し、破壊用突起部４５は、案内部２６を介して、第２ボックス部材４０から第１ボックス部材２０の内側へ延出する第１延出部９４と、該第１延出部９４に連続し、該第１延出部９４が貫通する案内部２６以外の案内部２６を介して第１ボックス部材２０の内側から第２ボックス部材４０側へ延出する第２延出部９５と、を備えている。

40

【００８９】

したがって、案内部２６を、第１壁部を貫通するように複数形成し、破壊用突起部４５は、案内部２６を介して、第２ボックス部材４０から第１ボックス部材２０の内側へ延出する第１延出部９４と、該第１延出部９４に連続し、該第１延出部９４が貫通する案内部２６以外の案内部２６を介して第１ボックス部材２０の内側から第２ボックス部材４０側へ延出する第２延出部９５と、を備えるので、破壊用突起部４５が確実に案内部２６により案内されるようになり、閉鎖状態から開放状態に変換することに伴い、確実に固有識別

50

情報記憶手段が破壊されるので、不正な基板ボックス90の開放や、内包される基板に対する不正行為を防止できる。

【0090】

また、破壊用突起部45は、取付部25側に突出し、開放状態への変換により固有識別情報記憶手段（ICタグ61）を破壊可能な突出状態と、第2壁部（第2周囲壁42）側へ退縮し、開放状態への変換によっても固有識別情報記憶手段を破壊不能な退避状態と、に変換可能であり、付勢部材103により突出状態となる方向に付勢されており、破壊用突起部45における取付用開口部46側の側部に被係合部105を形成し、取付用開口部46を閉鎖して取付部25に取り付けられた固有識別情報記憶手段を覆う仮設カバー部材106に、被係合部105に係合する係合部107を設け、仮設カバー部材106を、係合部107が破壊用突起部45の被係合部105に係合した状態で取付用開口部46に取り付けることで、破壊用突起部が退避状態に変換されるようにしている。

10

【0091】

したがって、破壊用突起部45は、取付部25側に突出した突出状態と、第2壁部側へ退縮した退避状態と、に変換可能であり、付勢部材103により突出状態となる方向に付勢されており、破壊用突起部45に被係合部105を形成し、取付用開口部46を閉鎖する仮設カバー部材106に被係合部105に係合する係合部107を設け、仮設カバー部材106を、係合部107が破壊用突起部45の被係合部105に係合した状態で取付用開口部46に取り付けることで、破壊用突起部45が退避状態に変換されるので、搬送作業や取り付け作業時等の衝撃等により、固有識別情報記憶手段が破損することを防止できる。また、基板の検査時などにおいて仮設カバー部材106を取り付けた状態で基板ボックス12を開放すれば、固有識別情報記憶手段を破壊せずに開放することができ、固有識別情報記憶手段を取り替える必要がなくなる。なお、遊技機の使用時には係合部107を有しないカバー部材を取り付けることで、破壊用突起部45は突出状態となり、基板ボックス100を閉鎖状態から開放状態に変換することに伴い、固有識別情報記憶手段が破壊されるようになるので、不正な基板ボックス100の開放や内包される基板に対する不正行為を防止できる。

20

【0092】

なお、本発明の遊技機200は、遊技機として、前記実施の形態に示されるようなパチンコ遊技機に限られるものではなく、例えば、その他のパチンコ遊技機、アレンジボール遊技機、雀球遊技機などの遊技球を使用する全ての遊技機に適用可能である。

30

【0093】

また、今回開示された実施の形態はすべての点で例示であって制限的なものではないと考えられるべきである。本発明の範囲は上記した説明ではなくて特許請求の範囲によって示され、特許請求の範囲と均等の意味および範囲内でのすべての変更が含まれることが意図される。

【図面の簡単な説明】

【0094】

【図1】本発明を適用した一実施の形態の構成を示す遊技盤の裏面図である。

【図2】遊技制御装置の下面図である。

40

【図3】遊技制御装置の前面側から見た斜視図である。

【図4】遊技制御装置の前面側から見た分解斜視図である。

【図5】図2に示すA-A断面を示す断面図である。

【図6】遊技制御装置を開放状態から閉鎖状態とする際の過程を説明する図である。

【図7】第1変形例の遊技機における遊技制御装置の前面側から見た分解斜視図である。

【図8】第1変形例の遊技機における遊技制御装置の下面図である。

【図9】図8に示すB-B断面を示す断面図である。

【図10】第1変形例の遊技機における遊技制御装置を開放状態から閉鎖状態とする際の過程を説明する図である。

【図11】第1変形例の遊技機における遊技制御装置の変形例を示す前面側から見た分解

50

斜視図である。

【図 1 2】第 2 変形例の遊技機における基板ボックスの前面側から見た分解斜視図である。

。

【図 1 3】第 2 変形例の遊技機における遊技制御装置の下面図である。

【図 1 4】図 1 3 に示す C－C 断面を示す断面図である。

【図 1 5】第 3 変形例の遊技機における遊技制御装置の下面図である。

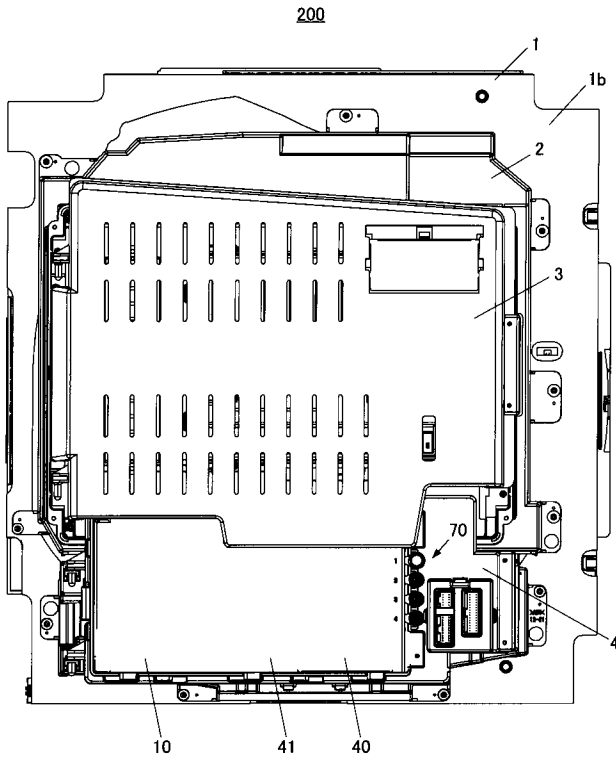
【図 1 6】図 1 5 に示す D－D 断面において、仮設カバー部材を取り付ける過程を説明するための図である

【符号の説明】

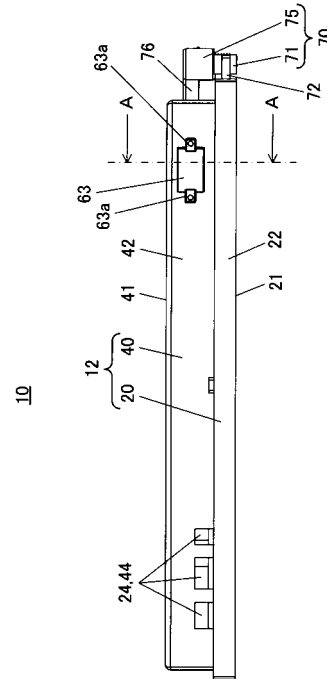
【 0 0 9 5 】

1	遊技盤	10
1 1	遊技制御基板（基板）	
1 1 a	コネクタ	
1 1 b	電子部品	
1 2	基板ボックス	
1 3	収納空間	
2 0	第 1 ボックス部材	
2 2	第 1 周囲壁（第 1 壁部）	
2 5	取付部	
2 6	案内部	20
4 0	第 2 ボックス部材	
4 2	第 2 周囲壁（第 2 壁部）	
4 5	破壊用突起部	
4 6	取付用開口部	
6 1	I C タグ（固有識別情報記憶手段）	
6 2	破壊手段	
6 3	カバー部材	
9 0	基板ボックス	
9 4	第 1 延出部	
9 5	第 2 延出部	30
1 0 0	基板ボックス	
1 0 3	付勢部材	
1 0 5	被係合部	
1 0 6	仮設カバー部材	
1 0 7	係合部	
2 0 0	遊技機	

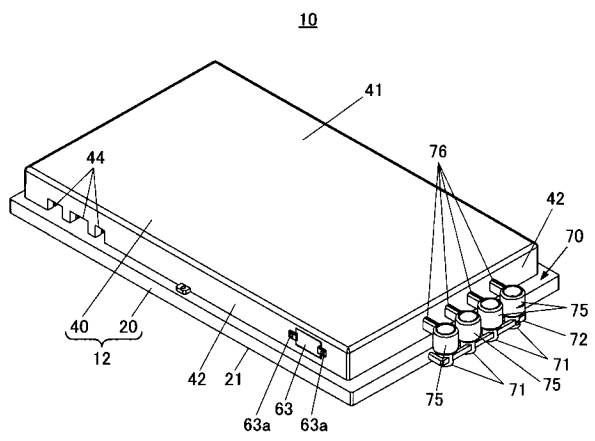
【図 1】



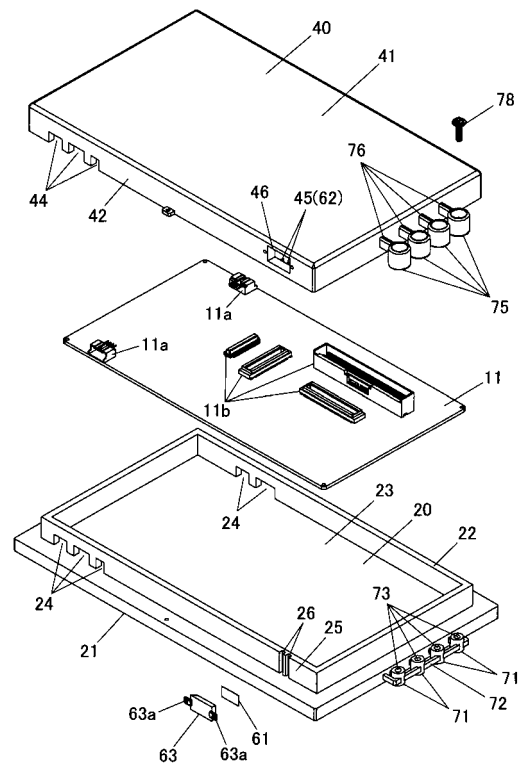
【図 2】



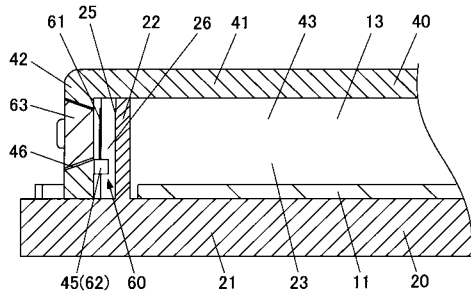
【図 3】



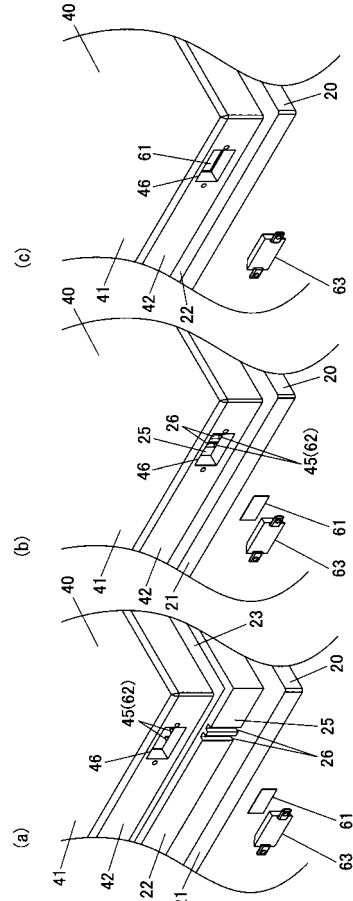
【図 4】



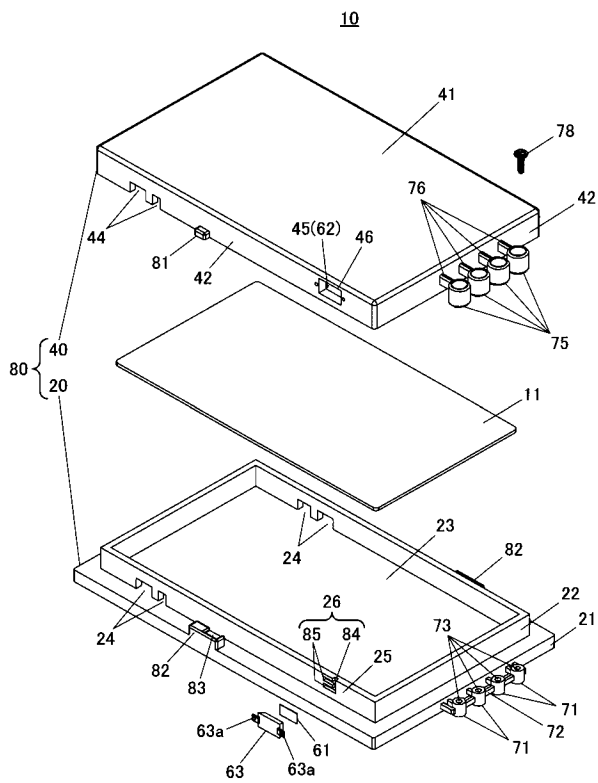
【図 5】



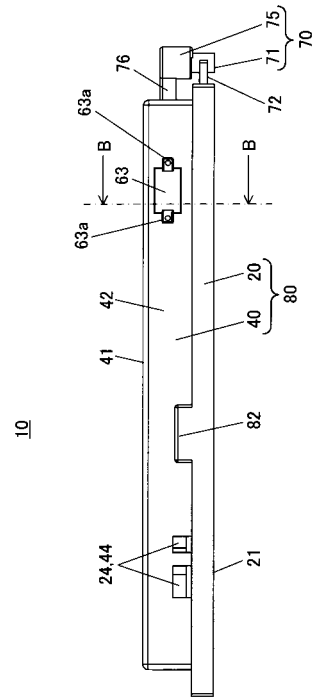
【図 6】



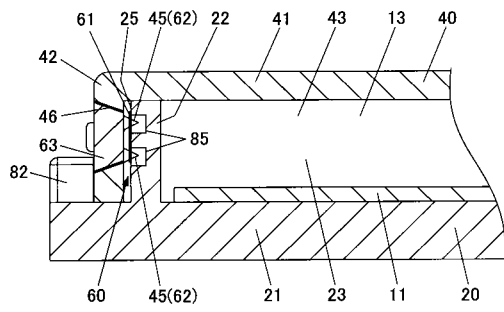
【図 7】



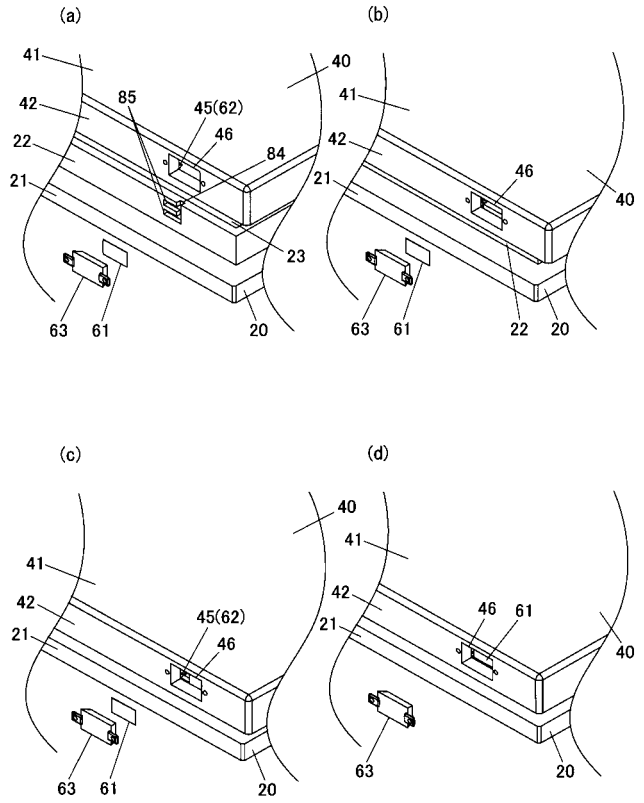
【図 8】



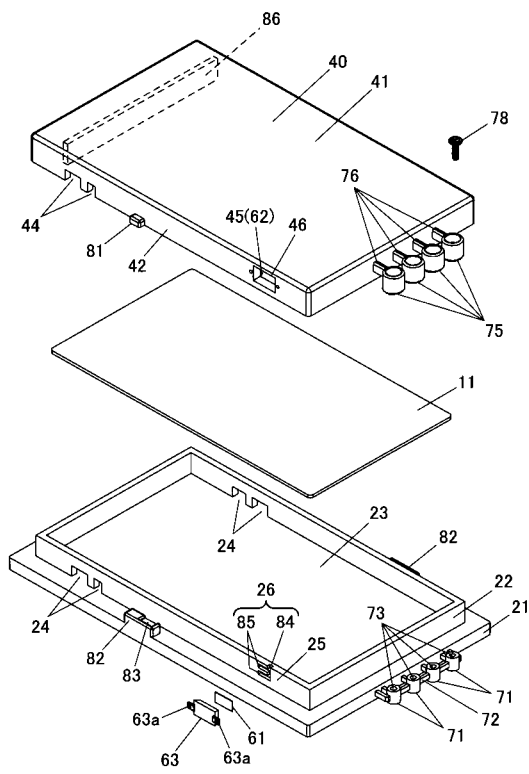
【図 9】



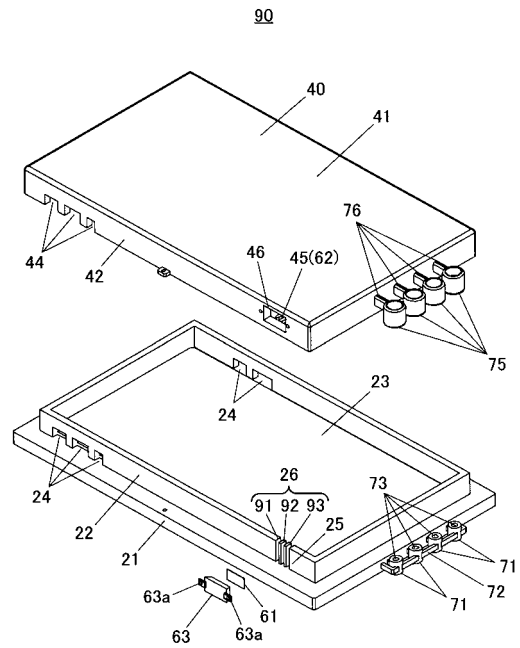
【図 10】



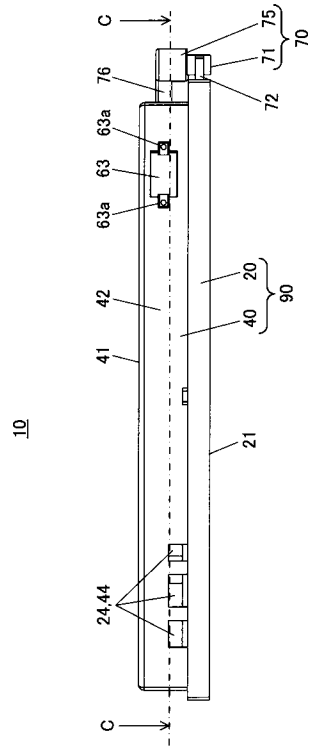
【図 11】



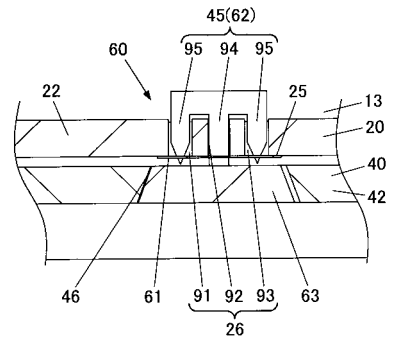
【図 12】



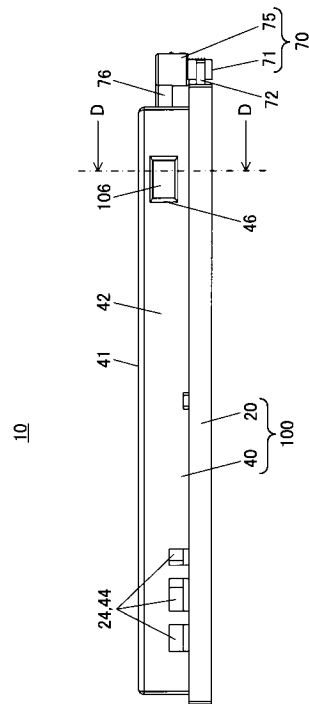
【図 13】



【図 14】



【図 15】



【図 16】

